

開催概要

■令和6年度 第2回吹田市障害者福祉施設等整備補助事業者選定委員会

<日 時>

令和6年（2024年）10月25日（金）14時30分から16時50分

<場 所>

千里市民センター2階 大ホール（千里ニュータウンプラザ内）

<出席委員>

委員長、B委員、D委員、E委員（C委員は欠席）

※ 5名中4名出席により、会議は成立。

<議 題>

障害者福祉施設等整備補助事業者の選定について（書類審査・プレゼンテーション審査）

<会議要旨>

1 委員会開会

2 諮問

3 応募者①によるプレゼンテーション審査

4 主な質疑応答

○委員

入浴設備の具体的な運用方法を知りたい。1人あたりの使用時間や、1日あたりの入浴人数、経年劣化による入浴設備の購入頻度等どのように考えているか。

●応募者①

整備予定の事業所は入浴設備を初めて導入するが、法人全体では入浴設備を導入している事業所があるので、入浴介助を経験している職員はいる。最初は午前中に1～2人程度入浴サービスを実施する予定。所要時間は1人あたり30分を想定している。入浴介助に慣れてくれば、1日あたり7～10人程度入浴サービスを実施する予定。

課題なのは、生活介護事業のサービスとして入浴が位置付けられているが、その評価が報酬上十分に措置されていないことだと考える。令和6年4月の報酬改定により身体重度の方の入浴

には加算が新設されたが、知的障がい者の入浴加算はない状況。入浴サービスを実施する際は、通常支援の職員体制よりも手厚い職員配置が必要になることから、運営費の評価については国に見直していただきたいと考えている。また、地域にお住まいの知的障がいの方も、入浴に対するニーズは多数あると思われるため、市の事業としても検討していただきたい。

○委員

人材確保について、工夫している点は何か。特に、強度行動障がいに対する資格者の確保について知りたい。また、障がい福祉業界の課題として、知的障がいかつ認知症の方の支援が挙げられるが、何か考えていることはあるか。

●応募者①

人材確保については苦労している。正規職員については、まだ人材を確保できている。一方で、職員の半分以上が非正規職員で構成されているが、応募者の減少や高齢化が課題で、現状も不足しているため募集継続中。本事業所の人員配置状況としては、上位区分の加算を算定し手厚い職員配置を行っているので何とかやりくりできている。職員の高齢化も進んでいるので、後任の人材確保について課題を抱えている。採用については、求人媒体の募集に加えて、数年前からリファラル採用を導入し、全体的な取組として進めており、採用実績はあるが今後不安な面もある。

強度行動障がいに対する資格者の確保については、報酬改定の要件（事業所に配置されている生活支援員のうち20%以上が、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)修了者であること）を満たしている。今後も大阪府の研修受講を増やしていく予定。また、行動援護養成者研修を法人独自で開催している。

高齢障がい者については、できる限り支援したいと考えているが、高齢期の専門性について違いもあるため、高齢者施設に入所させた事例がある。付き合いのある高齢者施設と研修を実施したこともある。知的障がい者の高齢化は今後も進むことが予想されるので、専門性を高めるとともに、高齢者施設との連携を強めていくことも必要だと考えている。

○委員

施設整備について地域住民の同意が得られているとのことだが、その過程で反対意見や慎重意見があったのかを知りたい。あった場合、どのように解決したのか。今回の整備に関わらず法人の事例を知りたい。

●応募者①

今回の整備について反対の声はなかった。同地域に20年ほど運営している事業所があり、地域住民が法人を認知していたため、理解を得やすかった。過去には、事業所を整備するために自治会にて説明をした際に、どのような方が利用されるのかとの質問を受けたことがある。利用者の状態と支援内容を複数回にわたって丁寧に説明することで理解を得られた。また、今まで地域祭りに参加することで地域住民と交流する機会を設けてきたので、今後も継続する予定。

○委員

どのくらい人件費率を見ているかについて知りたい。

●応募者①

人件費率は70%を超えている。サービスによっても人件費率は左右されるが、人件費率は高い水準を保っている。人件費を高く設定したいが、採用も難しい状況のため、今年度の予想としては昨年並みとなる見込み。

5 応募者②によるプレゼンテーション審査

6 主な質疑応答

○委員

資金計画について、自己資金を9500万円準備するとあるが、どのように用意するのか。

●応募者②

役員の持ち出しと、必要に応じて銀行融資の態勢も整えている。融資を受けるとすれば5000万円ほどを想定しているが、できる限り融資は受けない予定。役員の持ち出しで6～7000万円ほど工面できる。

○委員

どのくらい人件費率を見ているかについて知りたい。

●応募者②

6～70%。新たな事業として、高齢者の住宅から不要な着物を回収し、身体障がい者や重度障がい者が着用できるようにリメイクする事業を開始する。こちらの事業で売上が確保できれば、人件費に還元する予定。

○委員

施設整備について地域住民の同意が得られているとのことだが、その過程で反対意見や慎重意見があったのかを知りたい。あった場合、どのように解決したのか。

また、虐待防止の取組を知りたい。

●応募者②

2年前から整備地区での活動を進めていたため、自治会から認知されていた。近隣の方についても、法人だけでなく自治会からの説明もあり、賛成していただいた。

虐待防止については、研修には積極的に参加している。研修を受講した職員から、その他職員へ周知するなどして情報共有もしている。

○委員

医療的ケア者や重度障がい者の方を受入れてリハビリを実施するとのことだが、支援者には専門性が求められる。法人代表者が作業療法士の有資格者であるが、その他の作業療法士や理学療法士などの人材確保はどのように考えているか。

●応募者②

重度障がいの方に対応できるように、行動援護従業者養成研修については全従業員が資格取得できるよう計画を進めている。より専門性の高い職員を育成したいと考えている。現在の事業所でも6～7割の職員が資格取得済である。医療的ケア者の受入れに向けて、喀痰吸引等研修も推奨している。重度障がい者の受入れに向けては、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士の人材確保が必要だと認識している。それらについては、学生時代からのつながりや整備地域にいる理学療法士の協力により人員確保ができる見込み。

○委員

事業内容について、ICTの活用などクリエイティブな面もあるようだが、そちらについての専門的な人材はどのように確保するのか。

●応募者②

ICT機器の活用については、重度障がい者に対して、僅かな動きにも反応するスイッチを開発している。その開発者は法人代表者。他にも、言葉以外でのコミュニケーションや意思表示のツールとして、視線入力装置を導入している。こちらは、重度障がい者だけでなく場面緘黙症の方の気持ちを汲み取るために取組んでいる。また、知識のある職員が扇風機を自力で動かせるように開発したこともある。ICTは意思表示のツールのひとつとして普及させたい。

○委員

職員は利用者の支援とICTの開発をするとのことだが、人員配置はどのように考えているか。

●応募者②

利用者は6時間の通所が多い。職員は8時間勤務なので、残り時間で開発作業をする。生活介護事業所の工賃のための原資を生み出すことにつながると考えている。

○委員

利用者の定員を下回ることもあるのか。また、既存事業所との違いを知りたい。

●応募者②

既存事業所と主従関係なので、定員は合計40名の予定。リハビリのある暮らしについてニーズが高く、定員を満たしている状況。既存事業所では1日30分以上の運動をしており、支援学校を卒業しても運動する機会を設けてほしいという保護者のニーズに応えている。既存事業所とサービス内容の土台は同じであるため、経験値の高い職員を育成している。新規事業所

ではより専門性の高いリハビリやICTを活用したサービスを提供したいと考えている。

7 応募者に対する応募書類及びプレゼンテーションの内容に基づく委員の採点

応募者①

- 各委員の採点を集計し、平均点を算出した結果、選定が可能な点数（130点満点中122点）であった。また、応募者①の方が得点率の高かった委員は4人中4人だった。

応募者②

- 各委員の採点を集計し、平均点を算出した結果、選定が可能な点数（110点満点中83点）であった。また、応募者②の方が得点率の高かった委員は4人中0人だった。

8 審議

- 選定が可能となる点数を獲得した2者を、国庫補助協議対象の候補者として選定すること、また、得点率により順位付けすることについて審議し、両応募事業者を順位付けしたうえで選定することに委員全員が合意した。

9 答申

- 応募者①及び応募者②を、令和6年度吹田市障害者福祉施設等整備補助事業者（令和7年度整備分）の国庫補助協議対象の候補者として選定する旨の答申を受けた。なお、国庫協議の際は以下の優先順位を付す。

1 位：応募者①

2 位：応募者②